

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 勝山市立平泉寺小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒911-0822

福井県勝山市平泉寺町平泉寺164-12

E-mail heisenjisy@edu.city.katsuyama.fukui.jp

Website http://heisenjisy.mitelog.jp/

幼児児童生徒数 男子 21名 女子 17名 合計 38名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～11歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「地域を知り、地域に愛着と誇りを持つ」を活動テーマとして、ESDを地域に根差した学習活動として行い、地域の方々と交流を行う場と捉え、ESDの実践を通して郷土を愛する心を育てるとともに実践力の育成を目標とした。

具体的には、生活科、総合的な学習の時間、学校行事を柱に、①池ヶ原湿原の生態調査に係わる活動②池ヶ原湿原の環境保全に係わる活動③地域の方との交流を図る活動を行った。

### ① 池ヶ原湿原の生態調査に係わる活動

自然保護センターの協力を得て、以下のような活動を行った。

5月に、全校で池ヶ原を訪れ、生き物の採取・観察、植物の観察を行った。絶滅危惧種であるオオコオイムシやアカハライモリなどを捕まえることができ、池ヶ原湿原には貴重な生き物が多く生息することを実感できた。

3～6年生は、6月に池ヶ原湿原の水質調査や2016年から継続してきている、絶滅危惧種の「ミズチドリ」の個体数調査を行った。水質調査から

貴重な植物が生育することを知った子供たちはとても驚いていた。「ミズチドリ」の個体数調査からは、ヨシ刈りなどの環境保全活動により、個体数が順調に維持されていることが分かった。

10月には、3～6年生が絶滅危惧種である「ミズチドリ」「カキラン」の種子の採取と観察を行った。5・6年生は、学校に持ち帰った種子を蒔き人工栽培に取り組んだ。

## ② 池ヶ原湿原の環境保全に係わる活動

池ヶ原湿原には、特定外来種である「オオハンゴンソウ」が生育しており、年々生育範囲を広げている。3～6年生は、一昨年度から継続してきている駆除活動を本年度も行った。自然保護センターの職員から駆除の仕方を教えてもらい、花・茎・根に切り分け、軽トラック1台分の「オオハンゴンソウ」を駆除することができた。

11月には、全校児童で池ヶ原湿原に生えるヨシの刈り取りを行った。平成23年度から行っている活動で、7回目になる。家庭や池ヶ原湿原保全・活用協議会の協力も得て行った。家庭や地域の参加者もあり、昨年度の2倍以上の面積のヨシを刈ることができた。

## ③ 地域の方との交流を図る活動

本校で60年以上継続して行っている伝統行事の「フキとり」に、本年度より町の高齢者連合会の協力をお願いすることにした。一緒に活動する中でフキのとり方、仕分けの仕方などを教えてもらうようにした。活動を行う中で、様々な会話が生まれ、児童は高齢者との交流を深めることができた。

また、10月に行った「学習発表会」では、学校に関わってくださる地域の方々を招待し、児童と交流を行うゲームを行うようにした。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

・ 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物
----------------------

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのような

に位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200～300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

学年ごとにESDカレンダー(年間計画)を作成し、各教科等の学習においてESDの視点を取り入れる単元等を明らかにしている。総合的な学習の時間の学習においては、課題解決型の学習過程を重視し、子供が主体的に学習に取り組めるようにしている。

池ヶ原湿原での活動においては、自然保護センターの職員と事前、事後に活動内容の計画およびふり返りを行って、次の活動に生かせるようにしている。また、年度末に1年間の学習内容の総括を行い、自然保護センターの職員からアドバイスをもらいながら、次年度の年間計画を立てるようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

ESD担当を校務分掌に位置づけ、担当を中心に学習内容の検討や指導計画を作成している。また、担当が自然保護センターとの連絡を密にとり、学習内容の確認や講師の依頼を行っている。

町の高齢者連合会の会長と連絡をとり、協力をお願いする学校行事を高齢者連合会の年間行事計画に入れていただいている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

内部評価としては、1学期末と学年末にESDカレンダーの実施状況、ふるさと教育の充実、地域の実態をふまえた教育課程になっているか、地域との連携等を項目にあげ4段階で評価している。外部評価としては、年2回の保護者による学校評価の項目に地域との連携の項目をあげ4段階で評価してもらっている。その結果、地域との連携に関するポイントが上昇してきている。本年度は、外部への発信にも力を入れてきたため、保護者にもESDに関わる学習が理解されてきている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

町の敬老会や学習発表会で、池ヶ原湿原に生息する絶滅危惧種やこれまで行ってきた環境保全活動について、クイズや劇にして発表した。発表を通して、池ヶ原湿原が貴重な湿原であり、環境保護を行っていく必要があることを保護者や地域の方々に訴えることができた。発表を行うことで、以後の活動にさらに意欲的に取り組むようになった。

また、学校便りやホームページを通して、児童の活動を紹介することを行っている。児童の発表と合わせて、保護者や地域の方々の池ヶ原湿原や環境保全活動への理解が深まってきている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

児童が継続して行っている「ミズチドリ」の個体数調査は、県(自然保護センター)が進めてきた池ヶ原湿原再生の取り組みの成果の評価を行う1つの目安となっている。また、池ヶ原湿原保全・活用協議会が行っている「ヨシ刈り」へ協力することにもなっている。

高齢者連合会の活動への参加は、高齢者との交流を行う中で高齢者理解を図るよい機会となっている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

市内の小・中学校がすべてユネスコスクールに登録しており、市教委主催のESD担当者研修会において、それぞれの学校のESDの取り組み状況を交流している。

3・4年生(複式学級)においては、野向小学校の3・4年生(複式学級)と遠隔会議システムを使い交流を行った。外国語活動の学習の一環として、池ヶ原湿原の生態調査で学んだ内容をクイズにして出題し、答えの後に解説を加え、池ヶ原の貴重な生物を知ってもらうことができた。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項2-5に対応

自然保護センターと連携して、専門的な知識を持つ外部指導者の協力を得ることによって、教員では十分指導できない内容も指導することができ、学習に深まりを生み出すことができた。その結果、児童は自分の住む地域の良さを感じるようになってきた。

さらに、地域の高齢者の方々と交流を深めることにより、自分たちが地域で大切にされていることを知り、地域への誇りを持つとともに、地域への愛着を深めている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

これまでの池ヶ原湿原に関わる活動を、自然保護センターとの連携をさらに深め、児童が主体的に取り組む活動となるよう、活動内容を充実させていく予定である。

また、池ヶ原湿原の活動を地域や他のユネスコス쿨に発信することに、さらに力を入れていきたい。

池ヶ原湿原に関わる学習に加え、校区にあるジオパークのジオサイトに関することや、平泉寺白山神社、平泉寺六千坊など地域に密着した素材を取り上げ、市役所のジオパーク課や史跡文化課と連携をとり、講師などの協力を得ながら学習を進めていくことにしている。